

# えんちょう通信

No. 7 4

令和 4 年 7 月 4 日

福島市立清水幼稚園

発行者 佐藤 一男

## 「ぼく、キュウリ、初めてだったけど、好きになった！」

6月29日(水)、天気予報どおり、朝から暑い日になりました。園庭に出ていると、登園した子どもたちが、いつものように園庭に出てきて、小さな畑に駆けていきました。

子どもたちがいつでも水やりができるように、登園する前に、先生たちが大きな桶に水を溜めてためておいてくれました。

年少組の子どもたちが、そこで水を汲んでさっそく水やりを始めました。



「キュウリ、ちゃんと大きくなって！」

「キュウリ、でっかい！」

「カボチャもなってる。」

「みんな、こっちに来て・・・、マメもできてるよ。」

などと、とてもうれしそうに話をしています。

そこへ担任の先生が出てきて、言いました。

「今日は、キュウリを、しゅうかくしたいと思います。」

「当番さん、はさみでチョコキンと切ってください。」

当番の子二人が剪定用のハサミで切ろうとしますが、なかなか切れません。

「もっと、きつく、持たないと・・・」。見ている子どもたちが言います。

すると、周りの友だちが「がんばれ！がんばれ！」と応援を始めました。

ようやく大きなキュウリを1本、収穫することができました。

そうして「よしこ先生、お料理、お願いします。」とそのキュウリを先生に渡しました。

その日は、「6月生まれの子の誕生会」が行われましたので、そのおやつの時間に、少しずつみんなでそのキュウリを食べました。

帰るときに、子どもたちがこんなことを話してくれました。

「ぼく、キュウリ、初めてだったけど、好きになった！」

「ぼくは、キュウリ、あんまり好きじゃないけど、食べたよ。」

自分たちで苗を植えて、毎日水をあげて世話をきて、自分たちの手で収穫したのですから、食べてみたくなるのは当たり前です。そして、人が食べていれば、自分も食べたくなります。みんなが「おいしい。」と言っていると、自分もそれをおいしいと思うようになっていくのかもしれない。仲間がいる、友達がいるということは大事なのだと思います。

年少組の子どもたちは入園してまだ3か月ですが、こういう何気ない日々の生活や活動の中で、少しずつですが、確実に成長しています。

身体は、今、食べているものでつくられます。何でも「おいしい。」と食べることができる子になってほしいなと思っています。

